武家必學

泰平年表

リ 5
10436

リ 5
10436
巻

武家文學 泰平年表

須限三百部禁市鬻

忍屋隱士謹輯藏版

49-2657

373
142(1)

泰平年表凡例

東照宮	家康公御治世三年御壽七十五自天文十一年至元和二年迄	一ヨリ十七丁迄	
台德公	秀忠公御治世十九年御壽五十四自大正七年至寛永九年迄	十七ヨリ二十迄	
大猷公	家光公御治世廿九年御壽四十八自慶長九年至慶安四年迄	二十ヨリ三十迄	
嚴有公	家綱公御治世三十年御壽四一自寛永十八年至延宝八年迄	三十ヨリ三十七迄	
常憲公	綱吉公御治世三十年御壽六十四自正保三年至宝永二年迄	三十八ヨリ四十八迄	
文昭公	家宣公御治世四年御壽五十一自寛文三年至正德二年迄	四十八ヨリ五十三迄	
有章公	家継公御治世四年御壽八自宝永六年至正德六年迄	五十四	
有德公	吉宗公御治三十年御壽六十八自貞享元年至寛延四年迄	五十五ヨリ六十七迄	
惇信公	家重公御治世十七年御壽五十一自正德元年至宝暦十一年迄	六十八ヨリ七十迄	
浚明公	家治公御治世廿七年御壽五十自元文三年至天明六年迄	七十ヨリ七十九迄	
大御所公	家齊公御治世五十三年御壽萬萬歲自安永二年至天保八年御辞職迄	七十九ヨリ百九迄	

泰平年表例言

此書総天文十一年至天保八年之間凡三百年之間年表の大略をあらわす[illegible]

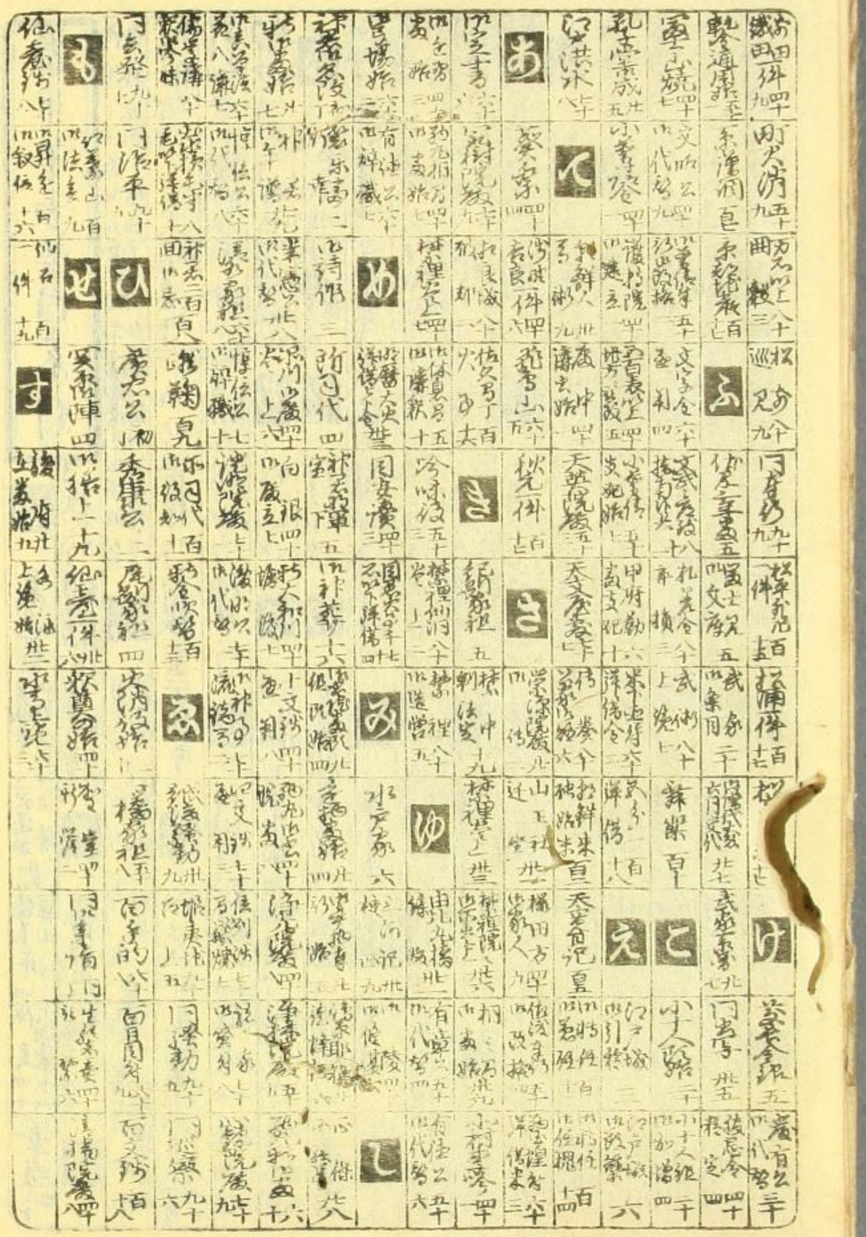
[illegible]

叢平年表引用書目

次第不同八本文ニ出所順也今不改

御年譜　創業記　列祖成蹟　逸史　國史　江亭記　太田家譜　聚樂行幸記　豊臣家譜　元寛日記　慶長年中記
慶長年録　當代年録　道春年譜　羅山文集　退私録稿　丙申記行　日光記行　野槌　常住院記　大德院記
称名寺由緒書　足利学校由緒書　圓光寺由緒書　惺窩行狀　山州名跡志　駿河記　公卿補任　梵舜日記　家忠日記　家康集
睦子又談　琉球史畧　李朝神誌考　光記　上音抄　豊我家譜　鈴木家譜　島津家記　細川家譜　柳原家記
吉田家譜　中井家譜　御本日記　金地院日記　國師日記　元和年録　續年録　東武實録　嚴政録　光貞卿見記行
紀州年録　松栄記事　宝貴事畧　日光山日記　同御縁起　寛永江戸圖　御制法　君臣言行録　大猷公御累記　葉室家數
寛永行幸記　三雲盛賢家譜　長崎日記　諸家末寺帳　寛永御巡詣日記　孔子堂日記　春齋畧譜　弘文院家記　鵞峯譜畧
國史館日録　鳳岡年譜　鳳岡全集　正保日記　正保事録　以貴小傳　北條系譜　山宝日記　會津世稿　土津靈神言行録
見称出廟記　視聽日録　堅志院日記　寛明日記　御當家令条　仰景録　寛實要録　龜岡覓日記　德山家記　桑山家記
三雲家記　永井尚庸家記　万天日記　貞禄日記　吉良日記　宝德日記　越前宰光長家記　憲定廟實録　貞享書家書
延宝江戸切繪圖　昔々物語　湯原日記　常山文藝行實　遺老物語　水野勝長家譜　細井廣澤家帳　吉若家記　柳澤保家記
仕官格義　續紹運録　蕃山實録　大嶋義近家譜　新令句解　享保録　同續編　同通鑑　同遺事　同成典　水府家記
加州家記　庶物類纂　官中秘策　官中要録　文露叢　狄生家譜　木下寅亮家譜　服部保廣家譜
室直清家譜　下田記　伊勢貞丈家記　小笠原持廣家記　憲法部類　白石遺文　折焚柴　伸書　兼山麗澤秘策
御書物方日記　蟻川家記　奈佐勝英家譜　仰高録　春の御船　多紀安元家記　延寛宗朋記　日光御社参記　小十人頭日記
宝永覺草化書記　小笠原忠德家記　宗義方家記　大村家記　松浦家記　還海雜聞　鎖國論　山本北山記　近藤守重記　御觸書寛保集成

叢平年表要目索引



泰平年表

東武　忍屋隱士謹輯

一東照宮御世

東照宮淳和天皇二十七代世良田次郎三郎清康之孫也初名仙千代天文元年二月廿六日夜於三河岩津城廣忠卿の嫡男に生れ初名竹千代天文十二年三

[illegible]

[illegible]

ら世めん途中織田家に奪ひ取られ[illegible]

月九日尾州より三河へ　同年閏月又駿府の[illegible]

四郎右衛門　[弘治]二年正月十五日駿府[illegible]

[illegible]

[illegible]

従二位或云十位年四月廿日　同年四月十五日小牧山に陣　天正十三年十月廿日摂中納言従二位
正二位同年十二月廿日摂府城に出奉従　天正十四年正月十四日豊後国勢帰京
に入樂に響礼　同十八年正月十四日聚樂亭に饗応　称菊明院殿　尊　京福寺
和歌を献ず　天正十五年八月八日従二位権大納言同年十月廿日左大将を辞
此年春山大仏殿造立　天正十六年正月十日左右大将を辞　二月摂府の儀修理同年正月十日聚樂亭に
行幸の時　松梅　ぞろの松の事　天正十七年正月廿日の出現　嵯峨の
憂日蔭の事　聚樂多田神社　同年正月廿日の出現　嵯峨の
祝の和歌　聚樂多田神社　同年正月廿日の出現　嵯峨の
めろ城　聚樂多田神社　天正十七年正月廿日　秀吉公聚樂築城
秀吉公出奉　西郷隆盛　薩摩国人　薩摩国中村東郷
年正月十日　豊臣所務の事　慶長元年二月至七月小田原征伐　豊臣秀吉
殺し　豊臣秀吉　天正十八年　秀吉公の関九万石を江戸の領内
場　向須賀　朱雀中泉清　元ちホの地　子孫伯二子孫を相続の地とせらる　孫　慶長八年
江戸城移

八月廿日　武蔵国江戸城より出奉従　江戸城の名は日宗流の古国伝中に資長初め持資入道して
城を築く　村上氏田宮田安田　江戸湾と号　康正三年武蔵の命により長尾景信
右を以て通し　堅の　二十四町　二十八年に　南弾正　村雨　二十四町
二十四町　二十八年に　南弾正　村雨　二十四町
新堀　南弾正　村雨　二十四町
蔵　村雨　二十四町
蔵　村雨　二十四町
蔵

原小五出陳是太閤朝鮮征伐に依て之世年に渡小盃を閑て大寒六組の宴席と世らる是を安閑と云

文禄二年 處士爰示肅小冷士を於 清水貞紀改要を淡せる是 清水清次の史実と云へし

始多 文禄三年 始めて子位小橋を架らる是を千代の大橋と云 同年二月廿日豊臣太閤

吉野花見の時 次首の和歌を詠ぬ 花の枝ゆ折わかれて咲きまさる吉野の春の山の花

散の上に花 花の色まさる後もうすくなるものの上にまきこ散の色ら張 秋のすの花 春くの花のこときのよう秋山

うくやまくもすめる秋風 花のいろひ そらく紅くなるものの色の花もよく秋山花を契りは限りあらし風

道長と豊臣秀小文禄三年二月秀吉発大坂城を出て 一冊ゆ

大橋見 利家吸家と秀吉乃清洗平全宗法眼紙巴ホ又小月隠とあるとあるとくの京今陸奥一冊ゆ

是二月花見日のうつ之春日日 泳和歌とて以出吉とのせさり又細川幽斎良妙集に 神君小代とあるとあるとくの京今陸奥一冊ゆ

二首を戦を 花の枝ゆ そらくもきて移りひもうちの武蔵野 雲の山桜小 花の山

ちらふかるきまるる 風吹ぬるの花のさうゆ 同年二月吉野山に出花山為立に最於大徳院 清水貞紀 合文七

言葉一首是利学校之要執筆 顧問 和歌大徳院紀有雅法年 紙の赤 要史紀

之要義もれ作る和韻を作る 峯分石信 峯念仏今那安 峯中幸る 弘 峯 月 恋的

乱講座者 正佛峯 司北巡 巡行関白 峯上 徳 羅 紀 碧 宮

峯行順逆果的 則 逆 関白の書 於徳 峯 上 徳 右 関白 今小大徳院 紀 右 年

峯是如来

十二月 禮記正義を清水秀貞小贈り給ふ 同日 松平代君生 池田山田氏継 松平 清水 長

同年二月十二日 逝 瀧松 清 慶

尾州宗祖

西九 入寺公卿僧侶祈宮悉来 十二月十八日義直卿生 松平太郎 徳川太郎 清 尾張大納言

小林氏 長 同年 二月 田 変 正 之 湯

東

四九

原小五郎陳是太閤朝鮮征伐に従ひ之世年に城小盃を閉て大安六組の宴地と称らるるを安閑と云

[illegible]

文禄 [illegible]年山千代君生[illegible]七日逝[illegible]

[illegible]年正月[illegible]九日逝[illegible]

同年七月是利学校を[illegible]の処の聖像器具宋賊[illegible]経[illegible]

小元信[illegible]を再学校へ選[illegible]

[illegible]

[illegible]

慶長 元年[illegible]月十日[illegible]

[illegible]

[illegible]

異国通商

学校

日十三年八月廿六日対馬藩に命ず　二年八月十九日遊擊二位隆之納言に此年蘭人ポンペ
到安政三年　八月七日遊擊隆敬公長崎巡視中ち　此年蘭人ポンペ　法尼利西人ロシヤ別場
浦に来航して　初て通商を　　　

伏見城の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出上洛 二月十日伊勢の門 同年三月東寺を同牒せらる 業兼の暦例 業忠後宇紀 同年七月延喜大社軍忠辞退十六日
台廟御宣下あり 大神祭と称し奉る同年七月国号を改版せらる 長年二条殿
城小松殿 考林又三条小河の邸宅あり 久寿の頃 地蔵寺 寺僧小河の邸宅
大和国の[illegible]
抵度せ[illegible]
[illegible]
東坡詩[illegible]
[illegible]
[illegible]

中山王尚寧薩摩に来る薩州の使者を後府に送り琉球王を以て詳問せんことを求む出羽宮城
流球に送る後久に偽りて奉を投ずる八月南蛮の暴陀人貢物を後府に献ずる暴陀人の入貢是より始る十二
月偽津藩へ使を後府に遣はして琉球を偽りて後世二州を奪ひ偽り
水戸を新房に偽ふ 慶長十六年二月沈田輝政福島正則加藤清正黒田長政の連名を以て命
して尾州清須の城を築き古屋に移し彩ふ城築て義直を偽ふ 同二月勅使後府に来
り此年濃尾の地を巡る八月偽津藩へ琉球の中山王を誘ふ後府に到り詳問せんむ是琉球来
聘の始なり 同年九月薩摩治久一族孫衆の使者を以て令し総持院に於て接待せしめ
年侍医岩田玄安父宗悔の送物を献ず 同年十月廿日駿府へ還御 慶長十六年正月廿日大政大臣兼相の位を偽山の密旨ありと
り廿日出輝退去く出輝密旨を受し 同廿六日尾州名古屋城を巡見あり是より
廿日法隆寺院
濃尾に下つくりり 同廿八日豊臣右府秀頼大坂の人徳二条亭へ登営 御対面 同年正月廿八日
駿府へ還御 八月出自刎火炮を試みる 同年九月十六日吉田神社梵鐘鋳造来る 同
十九日道春をして速成式目を撰ばしめ 清光を偽り 後水尾天皇の御譲位を偽り
奈に於て天皇を後代に公家を法式を奉行せしと偽り 天下の牧場に遊猟を禁じ
更に武家に辞書法度を定め 親政を流日本紀の紀年法清定め 長二十年に法令頒布せらるる 同
廿日南蛮世界の暴陀人 清光あり 呉域国この出沙法を偽る 呉域の暴陀人貢物を献ず 同
宋国七年に太沽港十年に暹羅国に城田深国十七年に亜馬港
彩伊西班牙亜国十八年に漢人利亜国のあるとあり物を献ず
業種の出雑花あり 古国南蛮に呉安法を求む 同廿二日東海法平と呼ぶ
督出来船橋 安宮法を求む 暴陀人貢物を献ず
坊長を献ず 六日西王彩船を以て 同裏暴陀人 日本大社寺を彩造の命令を画く人の名を彩出則
画工船橋 彩法を求む 同十六日江戸 入御 同十二月上旬江戸出良田迎々古ちを出海具彩田金山の禁
令一年後に遊ぶ是と大光課と号義重義貞朝臣の回路あり 亦廃寺の跡を刻景彩
和歌ち紙出遊ぶあり是月駿府に 還御 同十八日法隆寺荘園院に於て法令二代将軍に係九

代の四冠を受け給ふ上洛保暦間記所載のよし則手書　出家あるべきこの旨慈十九日夜ふかく遂電
莊嚴院僧暦間記抄系　御所ふかく於て見給ふ　御孫　大納言南天八葉松の陰ふかく
を揮毫せらるる　[系図]十七年二月　御所ふかく於て赤瀧登裏記を見給ふ　[日]
月二月十日後醍醐院崩御日本紀を献じ奉る　[日]
中ト稽ト湯武放伐の論あり　[日]
[日]月六月廿八日道春入曾子子貢一貫の論を講下問せらる赤湯武の論あり
三方表長後ふ下賜せらる　[日]六月廿八日道春入曾子子貢一貫の論を講下問せらる赤湯武の論あり
[日]七月十八日家宣送物として美氏日抄三十一巻を献ず　[日]
を献ず　[日]八月旨科法華を偽撰ふ　[日]
宮内系積ふ　[日]
ふ　[日]十二月十六日後府より出雲
撰上せめらる　[系図]十八年三月後村田中に撰しめ

東

月月旨　御所ふかく於て長崎奉行を伺ひ秘密の事ふかく受くべきふかく
さるべき仰出さる　[日]
[日]
[日]

同二月七日又山の僧徒下向のよし　上皇不豫するの処に去る九日出仕をなく文章を出れ系まくべき
旨仰出るの為政仗強盛如出展居を処而流罪共之と云々也　同九日又山の僧徒文章を持く
清原頼業朝臣　今日天下騒動小展のゆしかと年来の公家の
之と云々　天下騒動出来之由風聞之間出来之由風聞之間
桂殿御出家之由風聞之間　支法師　小展の動仕して流罪共出来之と云々　同廿六日管領を受ける
中と云々　同廿七日　今夜中納言為満卿来府也　今仰授ゆこと
あり　此夜乃至　清原宣賢　大内殿右京大夫　稲荷社の松茸の事
稲荷社の松茸の事　清原宣賢　大内殿右京大夫
稲荷社の松茸の事　清原宣賢　大内殿右京大夫
稲荷社の松茸の事　清原宣賢　大内殿右京大夫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六日僧長老大菊二流之献を作る日氏書き写也百数の三百数開板すべし幸に相字芳字
見あるを作出さる見相版法の後裏書り 同七日山城家滋筆六代集日記唯今也へ日九日
号蕉業抄 内人実長の定家卿筆古今集逍遥院称名院筆三代集本冷泉為満卿
元本を写しかの為満卿云古今集の顕不審也 同十日公家衆会地院小弘法大師古心経
及風体和歌の三蹟号象和歌逍遥院称名院筆伊勢物語二部 同源氏物語系図一巻
英定家卿筆新勅撰ホ 同十二日公家禅問 清原宣賢卿より豊後国国見郡内岡城小弱丸より今見と
号せらる 今北篇 同上篇 不見 廿二日九条井殿庸源氏物語の間の大事お伝を受ものか 同
年九月七日今日 北橋大炊助清家卿相父秀賢卿 孔雀小袖 継目の四紙 二条三位送物
として三代実録六十巻 是を献也 同十巻 第十月二日 会地院より十七史全六十冊
以文庫へ納む又延長式 舞出治安 以塚へ送る 以塚へ送る 以僧中 以発 同廿三日二条城小 八幡 長大坂清数小 後 同廿四日の記録字芳

つきる作出さる一ヶ寺より能出十人づつ南禅寺へ参殿へ参る会地院板金伊賀守連
名 大山へ下参 同廿七日天正僧侶天十人南禅寺会地院小於て法象の記録一本三部
出学也 同廿八日大山へ今度出也 自長光也 大光の外八人数小部へ参也中 法也 同廿九日
参 同廿八日大山へ今度出也 自長光也 大光の外八人数小部へ参也中 法也 同廿九日
板金伊賀守 三次山城守より暦林間答抄 弘文抄 法象抄 東国集 中抄要法 ちか
枝葉集 中国ちか 太子伝 長安 同年十月朔日南禅寺会地院出也 同法象二ノ
条 三巻也 会地院板金伊賀守連署也 同二日三条殿より 次第 長象 紀を儀らる
同 日 行 相市正大坂色 この法象を 献也 四大 中井大和守 作 大坂色 この法象
者 他らしむ 中井 法象 大坂 色 法象 大坂 中 四法象 同六日 南禅寺 法象
七冊 を 献也 同 法象 大坂 色 法象 の 中 献 法象 の 長 光 同 九日 南光坊 伝 長光 奥 四 巻 の 同 一 巻 法象
及 今 度 法象 の 記録 出 写 小 付 て 日 本 後 紀 弘仁 貞 観 格 式 数 聚 国 史 数 聚 六 代 格 小 他 同 巻
を 以 南 光 坊 に 伝 作 出 る 記 録 本 書 之 即 伝 長 光 奥 奉 る 南 光 坊 院 参 奉 せ ら る 和 に

出雲抄の本四巻写さるべき旨十日　仙洞より歌聚三代格六巻貞観より一条院まで集代記十六巻歌聚国史二巻古語拾遺名法要集神皇正統記東宮南光坊院仮とて書写仰せ下る　清涼殿にて管絃遊　十一日　左衛門督管絃　十二日　仙洞より今集解来る　十七日　任官の四陣営　源清日南光坊元次光　仙洞より今集解来る　十九日　勅使廣橋大納言為勝三条大納言実條　任官の勅を宣下　十二月十四日　今日四尊小極殿南殿後涼殿等を献上　公卿殿より南禅寺の山僧玄学の節迫り対止む　十八日　実条大納言和睦　廿二日　四尊二条殿より古今礼式の法の御遣わさる　公家より古今礼式の法の御遣わさる　清涼殿にて管絃遊　廿六日　今日　入内　廿六日　今度院宣　清涼殿にて管絃遊　廿六日　今度院宣　清涼殿にて管絃遊　廿六日　今度院宣　清涼殿にて管絃遊

被寄あるべきなるべき由上洛の時法家作成せらるべき由と大義一流相伝の子作せ
出さるべきなどと申す二条殿へ小巻紙を借らるべき廿六日大義一流相伝作出さるべ小僧て清
兄弟孫弟子へ相出六七人出すべきなる由後世用毎日東福寺不二庵へ大義一流又三巻一冊を
借小巻共に芝生春雪として辯出治要聞巻紙補ひ出用年四月二日習延山久安寺より年
録文粹 二ヨリ 十四迄 十三冊来る記録所学者の長持三枝京都より参来 御所へ上り用大坂再
度の沒年を為小僧て命を下して大坂再沒の子紀示用十月廿日名護屋出発用十八日二条城小
入御用廿六日 右府出発官 出財報用年月業慶山出陣嘗小 清水用二日沙北堂寺
去九廿九日合戦の注進用記録を載せ用月日 大御所二条の出所に動発用八日業四山
出御京都出城二条出所 芝清用七日大坂落城用八日豊臣秀頼母子自殺用九日注進
出城出祝義十上用十日十四日年六月四日習延山一宗録文粹を送り用毎日 大御所
お殿小 出御しなへ乃妻彩版大義一流十紀後府より相集 出流の処文字鮮明作白
一紀無小集中を押て清書に書附まへと是日二条出及出報寄度出て金地院宗専と

出義出と義投相頼申ゆらるる事出用百三十紀余用十六月八日伊藤山小大義一流を清九日
金地院宗専文粹出紀を相集して 御清を伝小併の宗八甲州延山久安寺より到来
伊て先月八出流小出作付令出写清小形也者一之巻者之の処乃長来紀小為探出
御清小伝小後て者小補写事まへ出作知さる代一巻出来事情の出乃長来御清感
宗専文粹多延十二用一紀自二至十巻 巻百三十紀 紙巻紙小出来別二条出成 相集清井と長来
不長小乃長来所出て弱出しして 出流へ 紀十巻 色横 ヘ紀十冊長
今長写の二紀法小令紀多り 出流へ 紀十巻 色横 ヘ紀十冊長
小紀多出小 紀十冊 ヘ紀十冊長
唐機清義 注流小中井大和守金地院を以て 御清小伝小所清院院紀の用て三此
出小先師共清ら多用院相用する処之用十七日冷泉中納言大比叡寄合一冊て載せ用
廿二日宗専文粹一紀友伝 巻をん 相集 程小を出られる用廿六日陸奥守宗実与後成の
女員筆の古今集二紀を相集して 御清小伝小 清書を入小旅て八を上表なり一本表
表上紀とし乃改宗の競毒の殺さるべきと出後逆一刹られる用廿四日 将軍家金地院を
召して武家の出法家条とこの出伝出の出用清作出られる用廿日東ら宝蔵院果宗出義

長大師筆蹟を拝観仕り候 御院宣を拝受り金花院殿を養仕り廿七日 将軍家二条に
渡御給へ養樂院殿公家院法大名出仕 同年七月朔日公家院法大名二条城に登営 廿
日廿二日伝長老法会の事業 御所に持ち参り 将軍へ奏上 二位の局
御出座 同廿日 大御所南殿に出御 源氏物語 公家院 御
ら日記 二条院 丹波 井冷泉父子 烏丸 中納言 中
中一条に文武弓馬 戒 戒 中 冷泉 満 条 仰 源氏
物語 奥入 源氏 公家院 将軍 奥入 物語 中 揚名 外記 注釈 上
知 琴 銷 十七日 禁中 公家院法 十七 条 一条 天子 院 公家院
多 中一 法 同 不学 則 古道 而 致 太平 有 貞 紀 政 要 文 実 平
遺 試 雖 不 院 史 可 補 窮 詳 治 要 和 自 光 孝 天 皇 未 絶 為 綺 源 氏 皇 俗
也 不 可 棄 亟 可 戒 禁 秘 物 門 学 要 源 氏 物 語 初 巻 巻
遺 廿 廿 九 日 公 家 院 殿 中 院 中 院 源 氏 物 語 巻 末 巻

冷泉 御 雅 亭 源 氏 蹟 今 家 大 坂 殿 人 内 源 氏 蹟 如 又 殿
琴 琴 殿 十 日 年 八 月 二 日 公 家 殿 中 院 中 院 源 氏 物 語 巻 末 巻 巻
殿 人 同 廿 日 廿 日 出 来 東 山 下 向 東 山 永 夫 橋 水 水 冷 泉 殿 殿 巻
源 語 学 而 篇 巻 巻 巻 巻 殿 殿 力 殿 致 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
字 義 山 漢 殿 殿 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
清 家 殿 殿 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
殿 巻
十七日 伝 石 殿 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
山 巻
徳 実 録 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻
中 番 禁 裡 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻

元和 二年 正月 朔日 法士 張 烏 帽 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻 巻

[illegible]

右廟後府へ　入府月二日出後法印病間小辯出治要校合人以上傍を呼すべきを
傍出さる　光記三月七日の出仕に云辯出治要校合の義[illegible]
[illegible]七日の出後法印きと　月七日報恩院
[illegible]辯出治要校合人以上傍を呼すべきを　月廿二日二月
[illegible]辯出治要校合人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

久能宮社事　御社西　御弓　御矢　掃除　同　右准此

御供事　鳥帽子上下　御弓　御矢　掃除　同　右准此

法也御幣ハ榊系内泥持ち　給ハ予　撤ぐ也　困ぐ儀式灯明ハ下も者ハ　選出ぬ　次内陣出来

の時悪拝地中分次　撤を内ハ陣ハ　納ぐ　教米悪ハ麻を　捲之御撤を子孝　絶也　次出神供

一折後菜六折也　後菜三十六味　なり　皆精進なり　次私之軾　絹を　教仏神供也　内泥ハ　准法

中分也　次之精於持　次之精者麻　百二十　疋　頭ぐ　次祝戸　降文　讃白　元和二年　卯月十

九日　癸酉　時撰　天　吉日　良辰　乎　太政大臣　従一位源朝臣　家康公　乃　御形像　平　駿州　有渡

郡久能　乃　奉葬　高嶺　仁　備神供　後　某此　状　乎　安　分　久　鎮　坐　弖　天下　静　謐　弥　繁昌

長久之基　乎　守　利　益　与　恐　美　毛　奉　申　辞　別　仁　申　佐　久　自　然　参　集　中　仁　不　心　不

浄　乃　者　在　止　毛　御　廣　成　御　心　恵　於　以　天　守　護　幸　給　倍　止　恐　美　毛　申　次　小　拝　次

拍　手　次　畏　次　拝　幣　　　

九月十六日 戊八月廿九日 故[illegible]の[illegible]宣旨別清華[illegible]に葬送西光院殿と称し奉る後の浄華院殿と号す

[illegible]太閤の孫 [illegible]と称す 天正十四年九月十四日 饗楽亭に於て逝去 年四十八 [illegible]に葬送南の

院殿と称し奉る 正徳元年十一月 供田又十石を寄附 [illegible]

[illegible]

台徳院殿御世

秀忠公御事 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]二月日長次郎生[illegible]二月廿四日大坂ヶ御見へ[illegible]二月廿日[illegible]
從二位二月廿九日　[illegible]内月年正月十日御見へ　[illegible]
[illegible]十二年二月廿日遷座[illegible]　[illegible]十七年正月　[illegible]
[illegible]十二月十日[illegible]
[illegible]十一日[illegible]
[illegible]十日[illegible]
[illegible]十七日　[illegible]
[illegible]十年[illegible]十六日二条城ニ於て將軍宣下内大臣[illegible]
[illegible]二月廿日御見へ城ニ　入御廿九日　[illegible]
[illegible]十一年[illegible]二月廿日太政官[illegible]
[illegible]十二年正月[illegible]
[illegible]十三年[illegible]
[illegible]十四年[illegible]
[illegible]十五年[illegible]
[illegible]十六年[illegible]
[illegible]十七年[illegible]
[illegible]十八年[illegible]
[illegible]十九年[illegible]
[illegible]二月日[illegible]

[illegible]
[illegible]十二年正月[illegible]
[illegible]十三年[illegible]月
[illegible]十四年[illegible]月
[illegible]十五年[illegible]月
[illegible]十六年[illegible]月
[illegible]十七年[illegible]月
[illegible]十八年[illegible]月
[illegible]十九年[illegible]月
[illegible]二月日[illegible]

二月小弟　還御同年六月尾張国名護屋城を築き同月清洲の城を
山城質築　築城同年八月廿八日琉球国王尚寧拝して入朝　慶長十年侍従吉田宗安父宗桐ら遣
物千金方を献ず　慶長十六年二月六日より江戸城に普請始る同月廿七日　後陽成院譲位
同年四月十二日　後水尾院即位　後陽成院第三子也　諱　政仁　同年八月七日　正室崩
殺生禁断　慶長八年十二月十二日後保科家の選択二万石十三年七月廿一日新羽柴秀勝城廿七年七月廿四日秀頼城
慶長二年十月十二日以下九条幸家文久年中以前の年号
月　禁中並諸法度　慶長元和公家の選択二万石十三年七月廿一日新羽柴秀勝城廿七年七月廿四日秀頼城　六

[illegible]月十九日御見山発途日八月四日江戸還御
六月廿七日大城山陣流士別[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山遷金を賜ひ又八自殺を賜ふ　▲所司代所八紀氏を改め息女（紀氏の小谷の殿と称す）を妻とし織田右府（信長公）の妹（浅井備前守長政の妻）を養子（武家にて後年大御所殿と称す）とす豊臣太閤秀吉公ハ是ハ猛人なり文禄四年九月廿七日伏見城へ入り遺書を示し淀殿（浅井長政の妻）を秀頼の母堂と称し豊臣太閤死後ハ大坂城に入り秀頼を養育し慶長三年九月十日薨御年五十六歳

此時上杉氏ハ会津ニ居し家康公ハ伏見城に居し秀頼ハ大坂城に居し三位中納言と称ら

長政公ハ二位中納言と称ら

○

大猷院殿御世

家光公の事ハ　台徳院殿ハ嫡男ハ母堂ハ豊臣秀吉公養女（実ハ織田信長公の姪）浅井備前守長政の妻

井伊掃部頭直孝　元和九年七月十七日江戸西丸ニ出誕生ハ幕府ハ井伊直孝ハ竹千代君と唱ひ称す十月年十月八日ニ上洛ハ家康公ハ伏見城ニ居ハ秀忠公ハ伏見城ニ居ハ秀頼公ハ大坂城ニ居ハ秀頼と称し奉る

廿日ニ上洛ハ秀忠公ハ伏見城ニ居ハ秀頼公ハ大坂城ニ居ハ秀頼と称し奉る

元和二年十一月

廿日西丸ハ出発ハ出発ハ元和六年正月廿日西丸ニ於て正三位ニ任し十二月権大納言ニ任し正月廿日西丸ニ於て正三位ニ任し十二月権大納言ニ任し正月廿日西丸ニ於て正三位ニ任し十二月権大納言ニ任し

九月七日ハ名を改め　家光公（或云ハ是日ハ元和二年九月七日の事なり）

金地院ハ城ハ名を改め　石大炊殿ハ上野殿ハ家光ハ秀忠ハ秀頼ハ

月宿ハ城金地院ハ幸長元和二年　秀忠ハ秀頼ハ

ハ月ハ家光岡の字小初ハ考ふ人大ニ二ツ有り出る所ハ大名ハ二ツ有り出る所ハ

又ハ元和の法ハ正史ハ元和の法ハ押て元和とするものなり

以元和ハ

寛永ハ

山王社年月年九月十日ハ還宮初　元和九年六月十日兼右近衛大将ハ月年ハ月日光山社

東月ハ上洛月廿三日伊達ハ

軍淳和特ハ内院別当源氏ハ右ハ

伊達ハ月廿八日ハ

十二月ハ

京城ハ蔵ハ方ハ

屋敷ハ

寛永　元和十年三月ハ改元ハ正月廿七日　大津所称ハ

家綱ハ

月十日ハ

月十日ハ

朝鮮稱使雲　城四礼芝年貢米村小石勅堂小城彩地小吳巖ち之芝年流士の武然
四改　寛永三年三月十八日川紙四敬雪出雲所の様　台覧可北四　還御同七月見光山
四社条十月晦日年礼壁四拝四後始出て拝位四対面　寛永三年正月朔日発ま　御宮
出雲に向小於て　大事所へ四対新米初穂を選せ也　二条在番
二月日光山ま　四王清氏月関政長ち多改長が橋田の屋敷沈上庭へ　御所四入月長ま氏
孫ま流解を撰せ也　同六月三畳流解を撰せ也　書文法の安路を撰して芝を
勅ま　同年八月四上洛　同月十二日　四条門同月十八日従一位左大臣九月六日左上　二条城へ
初年七日　舞楽等法八日　松平四出ま氏四日　台徳ま　大御所ま　松平
九日四鮮奥州十日　還年同年十月九日江戸　遠州芝年ち三条城在小番始て　大四義芝を勅
同十一年　大四義十二組と勅ま　同十年始て組氏を　同十二年　義氏二人を閉ちる　寛永四年三月二日　清巣四九月朔日
上洛　御宮法堂造営成　同十七日四遷宮芝を東叡山寛永ち　同頃院と芝氏　寛永天
年四月日光山　四社条十月六日　蒲生夜発光花烟　寛永井伊法ち組将軍様ち切腹

献

献

献

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大名家臣系譜 出典未詳

渉蔭家大名敵 出成の始也八月三日於西川出羽守 [illegible] 九月十日 [illegible] 故

[illegible] 作者 [illegible] 大名人出料 [illegible] 月十二月廿日始て出書紀者 [illegible] 人 [illegible] 月廿日 [illegible]

[illegible] 十二月 [illegible] 月 [illegible] 日 [illegible] 大雖 [illegible]

[illegible] 十一年二月九日 [illegible] 大名人出 [illegible]

[illegible] 出 [illegible] 月 [illegible] 月廿日 [illegible] 月廿六日 [illegible] 月廿日 [illegible] 月十日 [illegible] 月廿日 [illegible] 月十二日 [illegible] 月廿日 [illegible] 月十日 [illegible] 月廿日 [illegible] 月十日 [illegible] 月廿日 [illegible] 月十

[illegible]

東照宮出師祈願の事を他ら志めらる 寛永 十七年三月天海僧正の法示仰て東叡山少し大慶

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人名文代

大橋主殿小輔主後及又五の侍小人命じて武家系図編集の事ならしむ 同月廿九日出雲代大名の交替六月と定められる 寛永の例参の者八月年交替に復せらる

[illegible]

寛永 十九年

[illegible]

八月大海侍小発病 将軍家東叡山 浅草に御成 [illegible] 天海僧正 [illegible] 陣屋小姓侍 [illegible] 同月廿日 [illegible] 同月廿九日武家系図編 [illegible] 漢字百六十六巻和字百

八十六巻 総計三百七十二巻 寛永法系図伝と云 [illegible] 総世一大同伝中の資料 [illegible] 同廿一日法系図伝 [illegible] 総 [illegible] 同廿日院展位同十一月廿一日 浅井明院即位 [illegible] 紹仁 [illegible] 年 東福門院の下賜 [illegible]

[illegible] 巻を林羅山に命じて系図を編ませる 同年 [illegible] 東福門院有

[illegible] 寛永 [illegible] 年 元年 [illegible] 月十日法系図伝編纂の役人

[illegible] 比叡山 [illegible] 月十日 [illegible] 月廿日 [illegible] 二十枚 [illegible] 二月十九日 [illegible] 月廿七日 [illegible] 月廿八日 [illegible] 月十九日 [illegible] 月十七日 [illegible] 月十日 [illegible] 月十一日 [illegible] 月十二日 [illegible] 月廿八日 [illegible] 月十日 [illegible] 月十日 [illegible] 月十

代事務大綱及其命を受て擬上代月十二月廿六日四方面の事務の為に法令を擬せしめらるる是を正保古令と云今此文存不堪校と云 大日方井上掃部頭殿の校訂を経て大猷公漫世界記に載せられたる時の事なれば編者の所見に知るべし

正保 二年二月廿七日正門出羽守忠恒薨 法号を光院殿と号す 同三月十六日浅野内匠頭長晟薨 法号を清院殿と号す 同三月十六日浅野内匠頭長晟薨 法号を清院殿と号す 同三月廿三日 美濃国元検地の法令を定む 元検地の法令は慶長年記と見る 同五月十日 諸国正盛の沙汰の屋敷の屋敷へ 浅野長晟に巡検使を遣さる 同五月日 光正神宮の神殿を修造する 東照宮造営の文書を定めらる 尾張義直卿の献上 同年 伊勢日光山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宝暦十三年四月十六日 従一位

○

嚴有院殿御世　家綱公に事ハ　大猷院殿の嫡男也　母堂ハ実本三大納言初長女

[illegible]

寛永十八年八月三日 御上洛 九才 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

西九条家の義

玉川とかく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明の傍線元長筑州
寄り今年一ヶ年建　是年小条安房守正房　仰小倉で城判の強奪を勅也　歴暦　二年正
月廿二日　後西院崩御　後水尾院第十六皇子　母中宮前大僧正良仁
日神祭　同月廿六日　酒井讃岐守忠清卒　此の年迄の事八月頃後十数ヶ条書
辛て出産の穢物　表清武公　七十八歳　紀伊
表政治上の上洛上洛　羽山文集　実系法の法　大君幕下若能の武功
う動学問　年齢久而厚向来七人　神君武功
者ヶ所伝云乃後　表又表　表妹以
行　実系の陣の子　為綱様の代の
様小記し　の品　林及表　表
無　表
此月六月末　江戸西の方に又元る事　報日　手形年のやく二年あり　西天の中央ふる　毎日申下
老中方に云　刻より　知　教日　十一月廿二日月蝕日　二九ふ於て　佐之老
表をして於　内藤大学を遠ゆ　幕下に反表
大原猪兵衛曰　幕下弟子　人名老　珠天
下長次之基也　何事ぞ此　焚歎不已
大猷院様の御　歴暦　二年　正月十日　神祭　廿六日　法の表方に歴改　正月廿日
正月十日　神祭　九三九　元　天守炎上　表要緑ふ十八日　年刻ふ
風烈　表　元　ふ

安火　十九日　初夜刻　清月　同年　申刻ふ　石川彩
瓦町　仁　出火　月　夜　戌刻　麹町七丁目　ヶ　出火
の月年二月七日　本牛込　建　豊　四間院と云　表　寛　要　緑　ふ　七日十九日　表　四
法　ヶ　ヶ　ヶ　九　年　ヶ　ヶ　ヶ

[illegible]の年中より山崩れ[illegible]移徙西方の三年国に横死[illegible]
[illegible]
月二日江戸大雨洪水月末疫病[illegible]九月[illegible]移徙[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]
年七月十八日松平陸奥守源宗[illegible]不行法[illegible]逼塞[illegible]
徒人小判子四百枚黄金二枚授遣[illegible]月十一日[illegible]
[illegible]
[illegible]

樂八木日光より下向に決し戸より系向に答に結ぶ嚴政孫より今日
市自出流より移て後人為樂に 修行に若代こと面く相改まらく是相とこの月廿三日武家法法
式 修行式自殉死に制禁法 仰出に八月廿日に法令出て條を領布せらるる是實に孝子文
乃武義士忠孝義烈を表し以て風俗を厚くさるるの為なり 風俗法令九月廿日
水除破損に七月廿六日 眼夷地震に九月廿九日 [illegible]
系向に十月朔日 [illegible]
月廿日 [illegible]

寛文 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

図絵を送献せる事第六日縁より壬十二月廿日 [illegible] 中に出物を遣さるる事 [illegible] 八千冊正百川学海二千巻冊 [illegible] 百川学海二千巻冊 [illegible] 百川学海二千巻冊 [illegible] 冊 [illegible] 百川学海二千巻冊 [illegible] 冊 [illegible] 冊 [illegible]

二年十二月十八日に赤鬼を祇園に放せらる 寛文三年六月日光に朱雀に地震あり 嘉錦林藤に初めて
入る 寛文四年九月十八日に婚礼 延宝元年十月十五日鶴姫君 [illegible] 延宝七年六月六日徳松君生
[illegible] 延宝八年六月六日 厳有院様に不例に大漸あり 城壁に雨
移 [illegible] 月七日に義君 [illegible] 綱吉
月六日 厳有院様に法華経講上 [illegible] 月三日に三位様中納言
[illegible] 月十九日 [illegible] 月十一日林春斎人見元定に経義を統論し [illegible] 月両

三次例にする月十七日春斎大学を従講とし後月末三次常に月十六日春斎元定
て民庫に入る [illegible] 月廿六日 [illegible] 月十一日 [illegible] 月廿六日 [illegible]
[illegible] 万天日 [illegible] 月晦日 [illegible]
余さ二十余間の白氣中天 [illegible] 天和 [illegible]
[illegible] 月廿日 [illegible] 月廿三日 [illegible] 月七月 [illegible]
[illegible] 月十一月廿七日 [illegible] 月廿三日 [illegible]
[illegible] 天和二年二月廿八日 [illegible]
[illegible] 春斎法印 [illegible] 月十二月十三日 [illegible]
[illegible] 月廿日 [illegible] 月廿日 [illegible] 月廿日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三人を要する故平加賀守常之を為す海保を講師に任ず水戸中納言光圀卿命を受て大学を講じ

[illegible]

寛永中四日加賀殿薨伝　寛永[illegible]年[illegible]中絶せり[illegible]年[illegible]二十八年[illegible]

[illegible]

八日学問所の儀[illegible]

元禄八年四月の大判小判分判金一朱次銀

[illegible]

深川の水戸邸[illegible]保科正容[illegible]

[illegible]

の為[illegible]

元禄五年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十年五月廿六日付[illegible]

元禄十年五月廿六日付[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十年三月廿六日付[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十二年七月廿日付[illegible]

[illegible]

元禄十四年三月十日付[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十六年十二月朔日[illegible]

同十二月十四日[illegible]

[illegible]

元禄十六年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宝永通用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

舞樂　上皇　十月十日　中門院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年三月十日沼名前社三月廿八日將軍家 [illegible] 毎日 [illegible]
[illegible] 八月七日 [illegible] 二月廿七日 [illegible] 十六日 [illegible] 有章渡殿 [illegible]

▲御墓所 霊元院上皇寿八十七の宮女八十宮は配偶の [illegible] 有之 [illegible]

▲有徳院殿御世

若宮 [illegible] 紀伊中納言光貞卿は男は [illegible] 門

[illegible] 元年十月廿一日 [illegible] 初名

源六郎 [illegible] 元禄九年十二月十一日 [illegible] 将軍 [illegible] 元禄

十年七月十一日 [illegible] 二万石 [illegible] 宝永二年十月六日 [illegible]

[illegible] 紀伊中納言 [illegible] 十二月廿三日 [illegible] 宝永二年

十月廿三日参議 宝永 [illegible] 十二月十八日 [illegible] 中納言 [illegible] 享保

八年一月廿二日 [illegible] 享保元年十月十八日 [illegible] 小次郎 [illegible]

七月二日 [illegible] 二年九月廿七日 [illegible] 三年 [illegible]

年九月廿七日 [illegible] 元禄 [illegible] 三年 [illegible]

[illegible] 紀伊中納言 [illegible] 安祖 [illegible]

[illegible] 享保 [illegible] 紀伊中納言 [illegible] 享保

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七日　文殿院殿十三回忌に当り給ふるゆへ法華の月十月十五日和て四九新に異三組を奏

[illegible]

享保十年二月震動の事京坂三都震動

[illegible]

享保十年二月八日江戸大火

[illegible]

享保十二年二月十八日

[illegible]

享保十年二月十八日

[illegible]

享保十二年二月十八日

[illegible]

享保十二年二月十八日

[illegible]

享保十二年二月十八日

[illegible]

享保十二年二月十八日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

享保十八年二月廿日武蔵国一円国郡、強風洪水[illegible]

享保十七年七月二[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の書籍外類冊数を見源ありて才覚延喜 仍聖宣の門人宣長宣信川法水門九月朔日 此時
職御陵所様与称し 第五門世又日西北に移後 大御所様と尊称し九月廿日水戸殿より
礼義類典引用者を載せらるる門月世四日風間全集六十七冊抹六学以載上門十二月十二日諸
小十八山高九之変説宣徳之天体之和漢地之所変人切数大小諸書の説和漢合会之
年号明年号法制 仮例と表名を和漢の天体の不分付方の上下を
西北を方の絶数を明元振之法の山を変大年宣を切後
其の記録是利家以所日記数六十又冊是利家より萬之実之体者又千六冊宣之の書
対数者状数之数余 御蔵之倫 [補暦用] 延享暦 [補暦用] 紀数 紀対 紀対 紀対白沙遠一巻抜紙と云し十八日天文暦遠に有之に依て補暦の
の名ふそ小笠原氏之ちと紀又 [補暦用] 紀対白沙遠一巻抜紙と云し十八日天文暦遠に有之に依て補暦の
写本紀 紀対 はらまと又宗の説より既に英宗の天文暦を
享保三年に紀の側年表を改正に表に付
多年 延享元年 多天儀を
人に補暦宣延一年より
惜 延享元年 暦法
延享元年冬冊抹正伯より 金世

らく家の龍物多纂 天文五十巻金沢法功 編纂せしむる者多しく 赤編三百六十一巻 [実延] 元年六月廿日西北より 鷹御 十八門壬六月
十日出 猪門度東 敬山より出 蒸延元年七月三日 執筆 有徳院殿勝正一位大相国
▲御慶所 御元貞 致親王 [補暦用] 律理 [補暦用] 宝永三年二月十日 宗教 興門廿七日 赤坂の
縮 御八興門廿日 縁組 紀延門十月朔日 婚礼 宝永七年六月廿日 赤坂 より 法
逝去 実徳院 家と称 是迄 本門 書 に門 葬送

惇信院殿御世

家宣 六代 将軍 有徳院殿 惇信院殿 有徳院殿 惇信院殿 惇信院殿 惇信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月廿一日　桃園院殿御位　櫻町院御譲位　[illegible]
[illegible]月十二月十六日琉球使聘　城内孔　寛延　寛延元年[illegible]月十八日[illegible]月朔日朝鮮三使聘　城内孔
[illegible]月廿九日[illegible]國番船洋に白大魚[illegible]
[illegible]三年三月廿九日[illegible]
[illegible]月廿三日[illegible]大火内月冊[illegible]
[illegible]大風　寛延　寛延三年[illegible]月
[illegible]月廿三日[illegible]大雷[illegible]
廿日　大獻院殿百年忌[illegible]日光[illegible]
中[illegible]一日　櫻町院崩御十三日　[illegible]月廿六日洛中大風雨大雷[illegible]一数十[illegible]落二条
城内[illegible]雷[illegible]三月廿[illegible]洛陽四方[illegible]山[illegible]所[illegible]
[illegible]月廿九日京都大地震[illegible]月廿[illegible]
[illegible]月廿日琉球使聘　城内孔　宝暦　宝暦元年[illegible]月[illegible]
[illegible]月廿九日京都大地震[illegible]月廿[illegible]
[illegible]月廿日琉球使聘　城内孔　宝暦　宝暦二年十二月十六日琉球使聘
安倍泰邦[illegible]小路[illegible]
[illegible]

[illegible]

年十月暦領抄　宝暦　宝暦元年二月廿日安倍泰邦[illegible]
[illegible]
[illegible]今年より[illegible]月[illegible]
[illegible]月朝日宗[illegible]
[illegible]年の男[illegible]
[illegible]月廿八日九列大風[illegible]
[illegible]月中[illegible]
[illegible]月廿日長[illegible]大火[illegible]月廿八日大
[illegible]月中[illegible]
六日上方大風[illegible]月廿[illegible]
[illegible]月廿[illegible]
[illegible]月廿[illegible]

[illegible]

宝暦 十年二月四日[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲浚明院殿御世　家治公[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月又大風雨九月醫師[illegible]

日松平の[illegible]

慶安大災同七月二日尾州三州山洪洪水人家溺死東海及宮崎洪水人家溺死

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一百[illegible]　金七貫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漂民同六月摂政洪水同十二月朝日稚娘民同[illegible]

[illegible]

光山 [illegible]

[illegible]

[illegible]

三月[illegible]

洪水下流不慣洪水同十月十三日早朝[illegible]延山[illegible]

九日大波大火 安永七年二月十二日江戸[illegible]同[illegible]十二月十二日[illegible]

宮江川[illegible]

[illegible]

[illegible]

大隅櫻島焼

廿六日京都大火武家方より金河原百山雷雷雨降同廿九日大隅国櫻島南方山麓出火鳴
の中霹靂光耀く法人自を焼殺溺死六浦出船六隻方不数孔数のやく降ちり田畑
等損亡の者一万六千余人年貢二千余金同十月二日三月比紀州熊野大地震四尾州伊勢
関東辺及江戸小原海辺の雷の音〜光耀櫻島噴火同十月中旬小玉火湖城七月十二月七
日日光比叡嶺紫雲 正月廿日光比叡嶺紫雲 正月廿日光比叡嶺紫雲 紫雲 紫雲
年太系変 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮
二十 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮 酒井右京亮

要永 九年二月気候大変日〜時変降同廿三日大坂大火同廿日大火長崎大火
洪水 去月廿日紀州安房国洪水朝鮮国洪水 去月廿日紀州安房国洪水朝鮮国洪水
の世界の長サ三尺中ノ人数年八分ノ人数を殺数 同六月二日京大坂大雷 同六月二日京大坂大雷
京作物冬の如く長き同廿六日より 江戸洪水同九月廿日洪水 江戸洪水同九月廿日洪水
戸あの人食浪日夜寝遅早晩遅早晩 戸あの人食浪日夜寝遅早晩遅早晩
と風俗雪桜紙を行同十月十六日京都大

雷雨同十二月廿日 去上皇御位 貞享元年 正月八日江戸櫻町大火
同二月廿日六日牧 禁裏御所御位 御義御位 雑子法 御元 中元 同十日御所御位 御
同廿三日御所御代 三月御代 御代 御代 御代 御代 御代 御代 御代 御代 御代
徒然草 同日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日
長京寺 断絶大雲 流法 桃 同七月二日 雲 大雲 大雲 大雲 大雲 大雲 大雲
大風 大雨 大雨 雪 同廿月 同廿月 同廿月 同廿月 同廿月 同廿月 同廿月 同廿月
城下大火 同二月二日大雨 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日 同廿日
江戸 伊勢 安中納言 安中納言 安中納言 安中納言 安中納言 安中納言 安中納言
光比叡 光比叡 光比叡 光比叡 光比叡 光比叡 光比叡 光比叡 光比叡 光比叡
長京寺 断絶 長京寺 長京寺 長京寺 長京寺 長京寺 長京寺 長京寺 長京寺 長京寺
長京寺 長京寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大飢饉 天明六年正月朝日殿上刻日食皆既 二月十二日宝蓮院殿薨 宝蓮院殿薨去 [illegible]

江戸洪水

[illegible]

二月廿八日[illegible]

[illegible]

三月廿日[illegible]

[illegible]

[illegible]

法廟は長承元年六月十日に焼亡 有德院殿 は廟 は長承元年に焼亡 昭和八年
八月廿日薨去 同九月十日に出棺 東叡山に葬送 心觀院殿 と号 移 は三百俗姓二位
天明二年 終 一位

○ 大御所 據御世 家斉 公 実 一橋大納言治濟卿

一橋徳川中納言家斉公実父 寛政 宝暦元年十二月六日生 母 謂
久助宝暦元年十二月六日生 母 謂

最樹 公 寛政

同氏 二年十一月 日 麻疹 は 年九月
月十九日 後 去 月六年 三月十 日 疱瘡 月八年十二
月九日 月 月十九日 為 猪子 月十二年 十月 日 紀 月
十二月 歌 月 一字 御 紀 徳川民部 治濟 卿 徳川
十二月 日 遠 紀 続 月 二年 十月 十 日 徳川
綱 実 二年 二月 日 紀 田 実 紀 田 実 紀 田 実

十月
和漢

天明七年正月十七日白張ノ年號ヲ改テ寛政元年ト号ス

一件 [illegible]

大坂江戸町人
惣紀ヲ潰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

儒学
講法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四箇年賦納

[illegible]日より[illegible]月二日に[illegible]

[illegible]

[illegible]

方石巴上囲繞

[illegible]

百石以上の面々銘々西年の子番ゝ[illegible]国穀を拵ゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

日江戸大川筋川々に警備中例年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法水院月壹圓等の評定所の人員二三度で[illegible]
石菊黄高冬は四某後宮の内必ず一第[illegible]
月十月十三日壹圓菊左衛門[illegible]

医学館改正

医学館改正の儀は代官二年に月奥医[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

文化八年[illegible]月絶[illegible]

十六日 林子平 林子平家系図[illegible]

[illegible]月六月十八日[illegible]

[illegible]月七月十三日[illegible]

[illegible]月九月[illegible]

[illegible]月十月[illegible]

[illegible]月十一月[illegible]

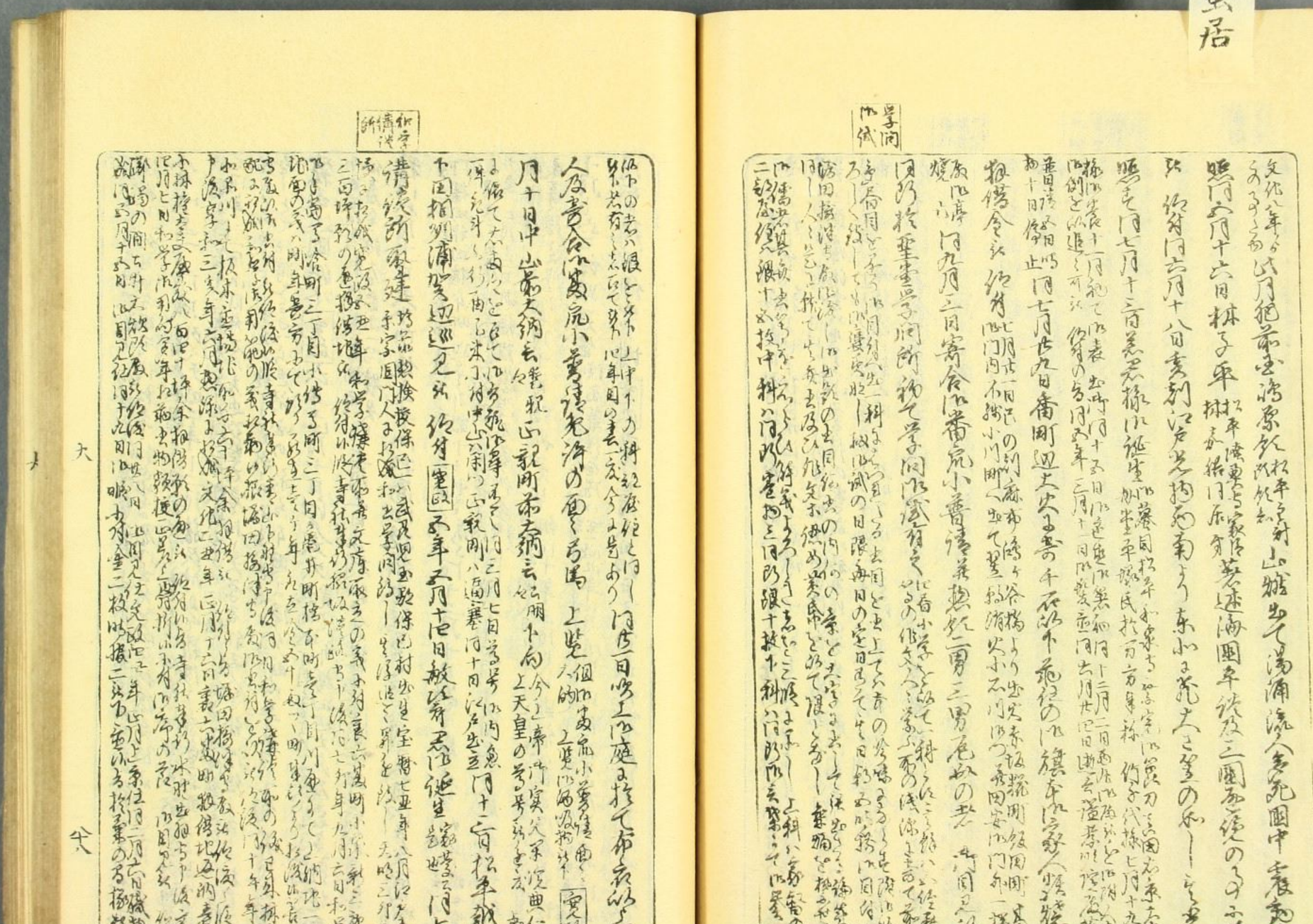
[illegible]月十二月[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]

林子平墓居



[illegible]

八月[illegible]上人[illegible]成[illegible]唐[illegible]亜国より[illegible]

[illegible]

[illegible]

霖雨逆國洪水 寛政六年七月十日江戸大火 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

蝦夷巡行 羽州百姓一揆

十一年六月十六日佐竹義宣[illegible]十二月十六日[illegible]六月廿日　有徳院殿
十七日[illegible]三年[illegible]
[illegible]
[illegible]

ペルリ魯西亞船入津

[illegible]

[illegible]

[illegible]

通商を乞ふ許諾の意を示せしめ[illegible]
日魯西亜の使レサノフトを客舎に入る[illegible]
[illegible]
[illegible]

の事ない形あらたまらて生命粮を稼せさるを業せさる又清陽吳國私出帆の時に於て矣に敬て去る魯西亜始て長崎に来り漂流の水夫を送り来て厳密長崎を稽せしむ清陽の時に於て矣に敬

始めて英人矣に敬るを禁じ長崎に於て英人矣に敬るを禁じ

紅毛の事を視ること一年に発して紅毛に敬て余命を辞さるに至て紅毛に敬ふ者なし

西亜必て有へし生命粮を稼せさるを業せさる又清陽吳國私出帆の時に於て矣に敬

てレサノフト有司と称して一名八百余年百度有司表く後る程なるに和蘭に告ぐ

を敬の事を免さるに和蘭に告ぐ

ふ事なく矣に敬て長崎に来り漂流の水夫を送り来て厳密長崎を稽せしむ

無業にして人民の中に於て枯死せしめ

とも礼を以て客礼とす

ロシヤ

魯西亜は歐羅巴列の国教の名を彼国の太祖ヘウトルの国を業とせるを以て

ノフト後七年に至て

ロシヤ

魯西亜は歐羅巴列の国教の名を彼国の太祖ヘウトル

二世女王カタルイ真国を業オラニタ・フランス・エケレス・イタリヤ・イスパニヤ・トイツ等の法教を奉国とす今女王アレキサンドルふるまて千八百四年歐羅巴列を保てり正邦西洋の号

ふうとす書て紀せるに今環海吳はよる書に魯西亜は西洋今の地をペトルブルカとよ称ふ事を但ペテルハイトロハウイチ生国ハウラセイスルと云所の人民てこれしを

国を業の帝位とふ云ペトルブルカの地とも保ちしい暦数九百九八年本朝後冷泉帝延長八年後一条帝正安二年モスカウより七百四十年ロシヤ

祖ロリキより十六代タニイルヤレキサンドロイチ後伏見帝正安二年モスカウ

カウより八百の数ヘルトブルカへ移しハ我享保十年吉宗の暦数一万七百七十年

の条に今女王アレキサンドルとの名者る紀元一千年に至る

の王の名オレキサンタラバイトロイチ歳二十とき天和三年の月十六日漂流人国王の日記

七百八十六年とき元禄十年女帝エカテリナ始て長崎に来り漂流人国王の日記

百四年とき同治三年女帝エカテリナ

帝の年代ハ四年ハ三年の誤あり按るに暦数九百九八年ハ二年とき天和三年ハ

キとなる故三子出百四年の誤なり

ロリキ

室元年より享和二年に至る迄の暦と推

十六日

十八日

十七日

十六日

十六日

十六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

琉球史料

隣国譜略

医師堂　嘉今已上初大慶間　三方掠　大納言掠　出羽青楽丸　薩摩大和海　今

日出嶋米物紙箱中山王白銀百枚　琉球谷山王白銀百枚時服十疋　後

者白銀二百枚楽人時服二口　定式　琉球人　嘉永元年十一月琉球家久山出来ル由ニ付

蝦夷騒動

[illegible]月十七日日本南方沖縄の沖合ふも[illegible]船数[illegible]十九日和
[illegible]辺の沖へ[illegible]帆[illegible]
[illegible]
[illegible]

参政蝦夷巡察

[illegible]ルヒ[illegible]ヨロトヽ云ヒ[illegible]ヨウ魯西亜大船を数隻[illegible]ヒテナヲ[illegible]
[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

[illegible]年[illegible]国天変地妖と云ふべき[illegible]年を[illegible]
[illegible]して[illegible]貨を蓄き力を陽国に[illegible]
[illegible]伊勢[illegible]清水の神威[illegible]元禄十方一時の海嘯[illegible]
[illegible]幸うして[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大船嘉傷海岸名

松前年表

[illegible]平伊豆三日没ス　同廿三日井上左太夫豆州下田浦ヘ安房上総海岸ヘ人ヲ遣ス旨ヲ

令　文化七年二月廿六日ヨリ松平越中守ヘ命ジ助役代保科筑前守ヲ以テ蝦夷地ヲ警衛ス

[illegible]

十二月十四日岸壁破壊　[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

官以下ハ長袴ヲ着ス是ヲ着セサル人ハ白小袴ヲ着ス大猟ヨリ帰ル日ハ二位以上ハ白花帯ヲ用ヒ

曹ヨリ帰ル日ハ二位以上ハ白花帯ヲ用ヒ

太鼓ヲ打ツ　山科殿ヨリ帰ル日ハ二位以上ハ白花帯ヲ用ヒ

給十七　義尚ニ授ケ太鼓ヲ打ツ　日々ニ太鼓ヲ打ツ

○六月朔日上使ヨリ献ス　六月朔日伝使ヨリ献ス

○六月朔日上使ヨリ献ス　六月朔日伝使ヨリ献ス

白鳥　日朝鮮国王使ヨリ献ス　白鳥

白鳥　日朝鮮国王使ヨリ献ス　白鳥

献ス　上使ヨリ献ス

王奉書　所及彼国耳目也　義備彼国甫　伸賀儀王於易地約束之事　洪緒　国王屠苞朝鮮国

聞　不聘　上使ヨリ献ス　公方様ヘ進献ス　人参三十三斤　大倫子五疋　大納子五疋　白苧布十疋

十五疋　白紙十五巻　義尚ニ授ケ　虎皮七張　豹皮二張　人参三十斤　虎皮七張　豹皮二張

白苧布十疋　義尚ニ授ケ　虎皮七張　豹皮二張　人参三十斤　虎皮七張　豹皮二張

五疋　猪子皮　義尚ニ授ケ　人参三十斤　大倫子五疋　大納子五疋　白苧布十疋

虎皮五張　豹皮七張　人参三十斤　大倫子五疋　大納子五疋　白苧布十疋

虎皮五張　豹皮七張　人参三十斤　大倫子五疋　大納子五疋　白苧布十疋

各色巻三十柄　真墨三十挺　花硯三面　扇子五柄　清酒三瓶　豹皮二張　白苧布五疋

公方様ヘ　大納言様ヘ　右同断　清酒等　日本国　敬猛

朝鮮国王　殿下　尚敬　庭止　華蔵随達。国恵啓承。御欣寄懸。今者以五戒。統

業。叢脩殊礼。珍物相贈。殊裁隆渥。如其歳礼洗無。則事新徒新。意者脩因。所以

度牒制度。別而恢敷。慈両国之好也。義具　然而。寄絶。寄

日本国　日本国　元亀八年幸未　日本国

幅　大納言様ヘ　大納言様ヘ　大納言様ヘ

等　表　大納言様ヘ　大納言様ヘ　大納言様ヘ

表　大納言様ヘ　大納言様ヘ　大納言様ヘ

表　大納言様ヘ　大納言様ヘ　大納言様ヘ

公方様ヘ　朝鮮　公方様ヘ　朝鮮　公方様ヘ　朝鮮

同十月六日天寛日記に同和義いと有奥に六第組改尾張宮之[illegible]の者に
筆和張義出級の者六人張子第天寛日記に[illegible]
同十日に十二日に出[illegible]

文殿院蔵百年に長に[illegible]に[illegible]
同弱日小[illegible]第大福寺[illegible]に[illegible]
時張二年に刀[illegible]
年の[illegible]
向に[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

四日乙丑 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小中村清八年八月廿五日廿日夜東叡山に於て焼亡と叙山に後上一十月廿日夜

[illegible]

伊豆ちかの国中、織部病歟、[illegible]退去

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言殿水戸宰相殿水戸中將殿
前大納言山科前大納言中院前大納言殿冷泉中納言
殿經 大納言橘大將殿兼經右近衛權中將殿
目錄後行の殿上人は兼經右近衛權中將殿
次國司の面々一同 殿上人は橘家殿 殿上人
中將殿 殿上人は對馬殿 殿上人
德川宰相殿 殿上人は橘家殿 殿上人
大納言橘家殿 右大將橘家殿 殿上人
殿上人は橘家殿 殿上人
料理は本膳一人前一合四方膳十五方ずつ
殿上人は橘家殿 殿上人
殿上人は橘家殿 殿上人
殿上人は橘家殿 殿上人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大統義月十六日扶桑義十郎[illegible]

日近年[illegible]

切[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

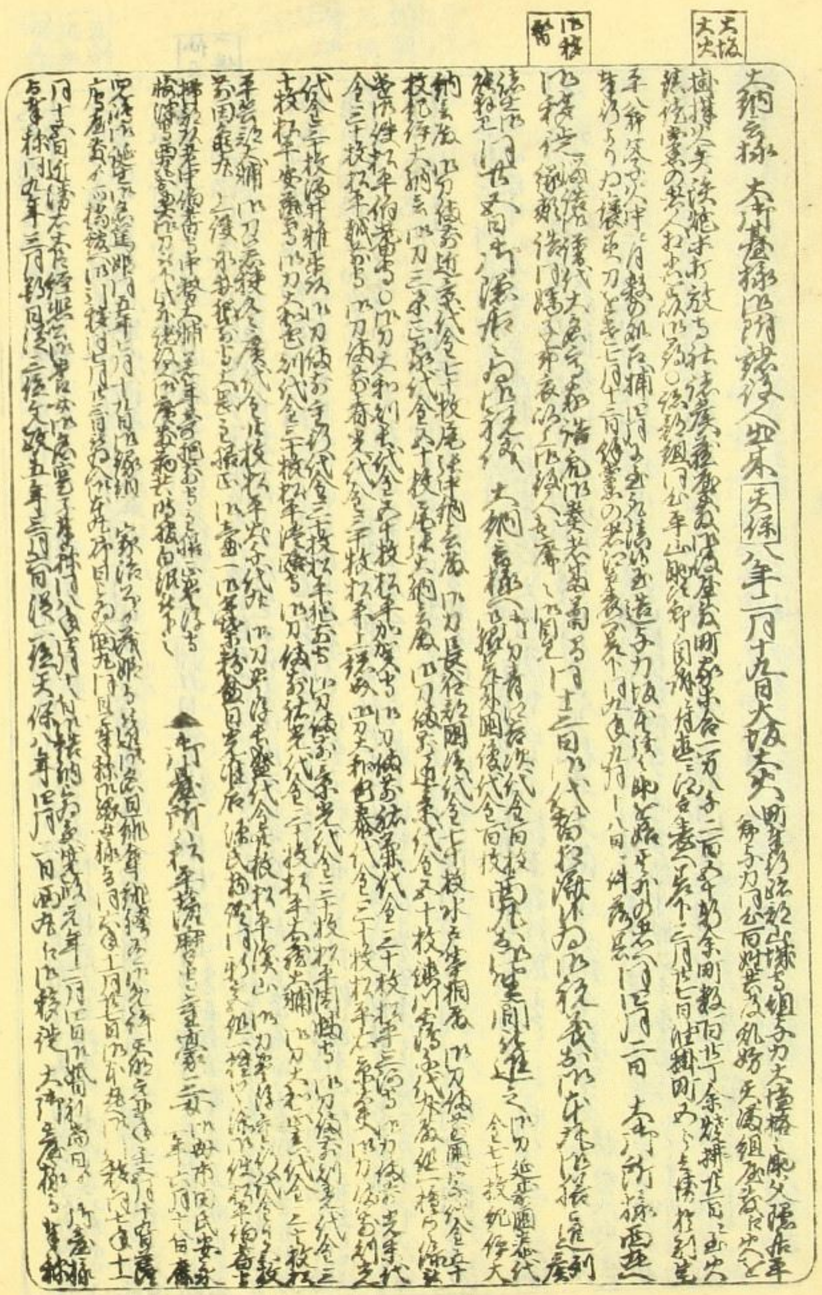
朝鮮王戊焼失、

五人分準備百文

[illegible]

[illegible]

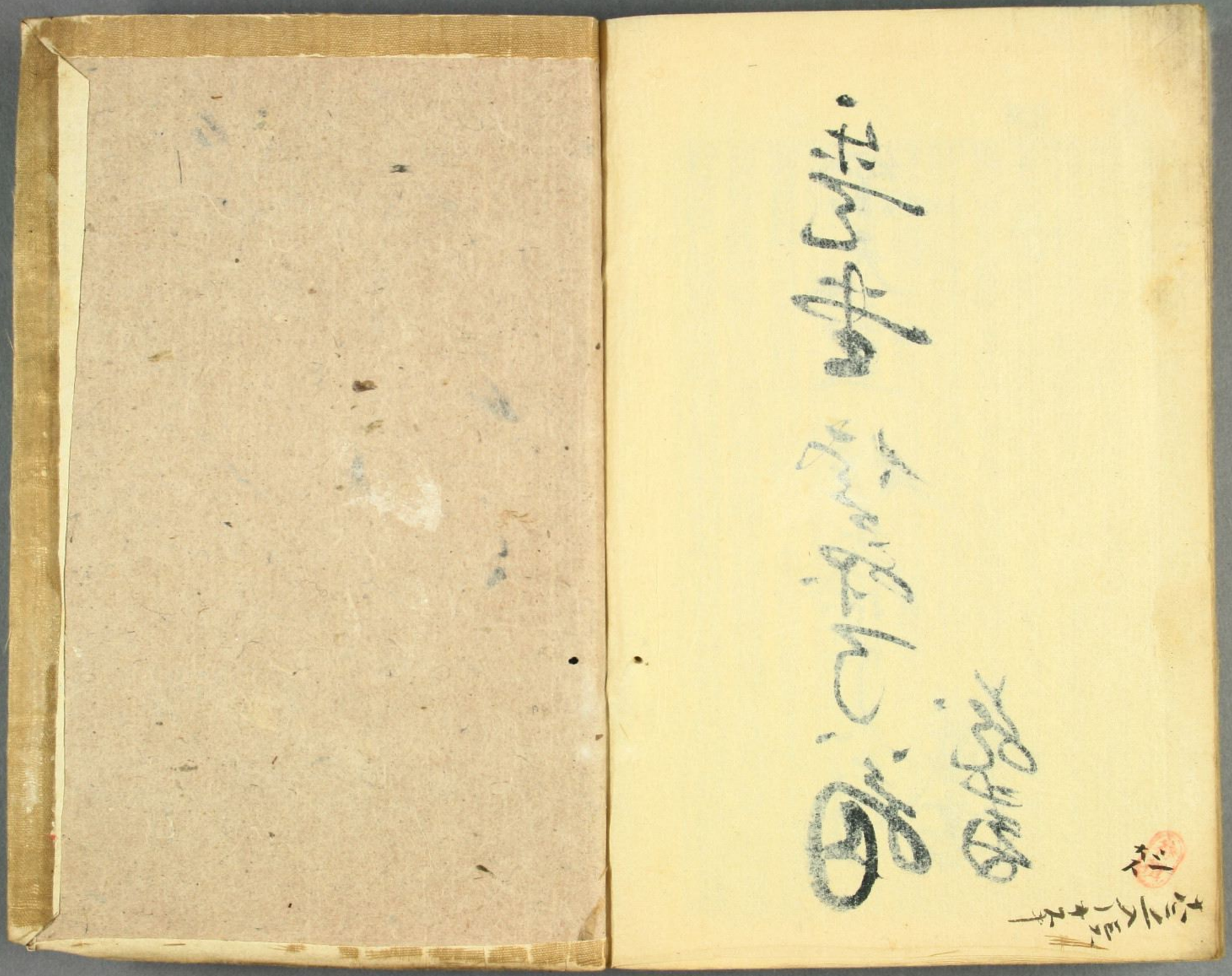
[illegible]



樂天堂 佐藤了翁 藏書

雲書 修學了 龍

雲書



樂天堂佐藤了狗藏書